

1 研究テーマ

「個に応じた自立活動の視点をふまえた学習指導の在り方」

2 テーマ設定の理由

平成23年度から3年間、「児童生徒の教育的ニーズをふまえた自立活動の指導」を研究テーマに取組を進めてきた。3年間の研究の経過からより効果的な「自立活動の視点を取り入れた授業づくり」「教材教具・支援具についての研修」をさらに深めて研修することの必要性があがった。

自立活動の視点をふまえた効果的な指導を進めるには、マネジメントサイクルにおける、実態把握（A）→計画（P）→実施（D）→評価（C）→改善（A）に基づく授業改善が大切である。とりわけ、特別支援学校の障害のある児童生徒には計画を立てる前の実態把握（A）が重要である。個々の障害の状態を6区分の自立活動の視点を持って、よりの確な実態把握をし、適切な目標設定を行うことにより個に応じた指導をよりいっそう効果的に行うことができる。

そこで、平成26年度から「個に応じた自立活動の視点をふまえた学習指導の在り方」を研究テーマとして3年間の計画を立て、本年度はその3年目として実践研究を進めていく。

3 研究主題

研究は3年間で行う。

1年目（平成26年度）…各教科等・自立活動における実態把握について

2年目（平成27年度）…各教科等・自立活動における目標設定について

3年目（平成28年度）…各教科等・自立活動の視点をふまえた授業評価について

4 研究の方法

（1）授業改善に向けた取組

①校内全体研修会

ア 外部講師によるテーマに沿った内容の研修会を実施する。

②校内授業研究会（7月）

ア 公開授業研究会に向けて、外部から指導助言者を招いて校内授業研究会を実施し、各学部で研究協議を行う。

③公開授業研究会（9月30日）

ア 小学部、中学部、高等部から各学部一授業、公開授業を行う。

イ 外部から指導助言者を招いて、各学部で研究協議会を行う。

ウ 外部講師による研究テーマに沿った内容の講演会を実施する。

④教材教具・支援具についての研修会

ア 教材教具・支援具について各学部で研修会を実施し、一人1回学部で発表する。

イ 公開授業研究会で展示する。

⑤自立活動の視点をふまえた効果的な学習指導

ア アセスメントツールを活用しながら、個々の児童生徒の実態把握を行い個別の目標設定をする。指導略案や授業記録等を通して児童生徒の評価や授業評価を行い、日々の授業改善を図る取組をすすめる。

イ 肢体不自由児の特性をふまえた・マネジメントサイクルに基づいた教材教具・支援具を作製し、授業で生かす。

(2) 専門性の向上に向けた取組

- ①「上肢の動き」のチェックシートの改善に取り組む。活用に当たって手引きを活用する。
- ②自立活動だよりの発行や実践報告会の実施による情報発信を行う。
- ③外部講師，内部講師による，自立活動に関する研修会を行う。
- ④PT・OT等，外部専門家等と連携し，児童生徒の実態把握や指導方法についての理解を深める。
- ⑤支援機器・教材教具の整備・紹介，展示，貸し出しを行い，活用を推進する。

研究の方法 全体図

《教育研究部》

《自立活動部》

